

第2章 機能について

2-1 機能コンセプト

青葉山公園のアプローチとしては、市街地から大橋を渡るルートがメインアプローチとして考えられ、公園センターの計画地は、「青葉山公園・仙台城跡の玄関口」として位置づけられている。このことから、青葉山公園、仙台城跡及び周辺地区の利用の起点として、来訪者が最初に立ち寄り、様々な場所で楽しむことができるように公園センターの機能コンセプトを以下のとおり定めることとする。

◇機能コンセプト

**～ここから始まる仙台・青葉山の魅力発見～
仙台城跡の歴史的風情と豊かな自然が織りなす青葉山公園のエントランス**

2-2 機能展開

エントランスとしてのコンセプトを実現するためには、青葉山公園、仙台城跡及び周辺地区を楽しむための情報を公園センターで発信し、来訪者が容易に情報を入手できることが必要であり、公園センターの核となる機能である（**情報発信**）。また、青葉山のみどりを背に広瀬川に続く広々とした空間で市民、来訪者がくつろぐことができ、公園利用の拠点として食事や休憩ができること（**飲食・休憩**）、更に、仙台らしい体験プログラムなどにより新たな発見ができ、おもてなしと新たな出会いの場の創出により様々な交流ができること（**体験・交流**）が必要である（図2-1）。

2-3 青葉山公園周辺への波及

公園センターは青葉山公園と仙台城跡のエントランスとして、青葉山公園、仙台城跡及び周辺地区（以下、青葉山周辺地区と表記）の歴史・自然資源及び施設をつなぐ連携の核となり、共同のアクション（情報発信やイベントなど）を起こすなど、仙台のシンボルエリアとしての魅力を向上させることが求められる（図2-1）。

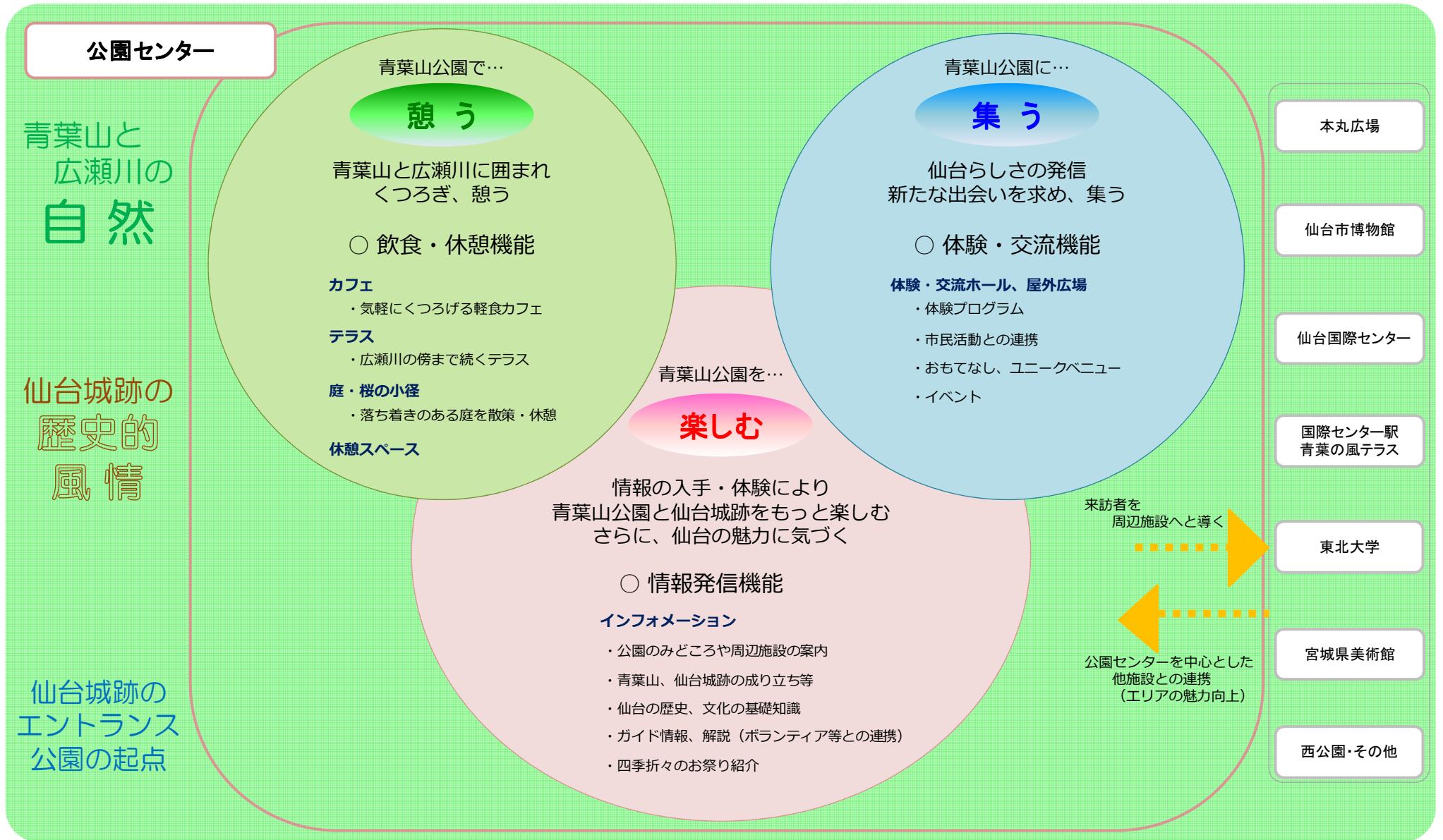


図 2-1 公園センターの機能展開図

2-4 各機能のイメージ

市民や観光客が仙台及び青葉山公園を身近に感じ、多様な魅力に触れることができるように、「楽しむ」「憩う」「集う」のそれぞれの行動につながる公園センターの機能イメージを以下に示す。

1) 情報発信機能…楽しむ

公園センターでのインフォメーションは、仙台・青葉山を知るきっかけとなる情報を提供することを第一の目的とする。歴史・文化については、来訪者が概略をつかめることが重要であり、その上で、興味がある部分についての詳しい情報は、仙台市博物館、仙台城見聞館、もしくは市内各地の歴史遺構等へ赴き、理解が深められることを期待する。また、青葉山周辺地区は範囲が広大であるため、一度訪れるだけでは全体を把握することが難しく、そこから来訪者が訪れる場所を選択できるような全容がわかる情報提供を行う。

更に、周辺の施設には無い追廻地区の歴史の変遷（片倉小十郎屋敷跡の情報）や、仙台の文化を象徴する四季折々のお祭など、公園センター独自の情報を提供する。

また、青葉山周辺地区のイベントや体験プログラムの情報を一元化することによって、利用者にわかりやすい情報を伝える。

◇インフォメーション

仙台・青葉山を知るきっかけとなる情報の提供

- ・青葉山の全体像や見どころなど、実際に出かけて見に行くきっかけとなる
- ・青葉山の地形や仙台城の配置が理解できる
- ・気軽に仙台の歴史・文化を知ることができ、市民も仙台を再発見できる
- ・追廻地区の歴史の変遷、片倉小十郎屋敷跡の情報を知ることができる
- ・四季折々の仙台のお祭りを知ることができる
- ・「政宗が育んだ伊達な文化」などを知ることができる

総合案内

- ・イベント、旬の情報を知ることができる
- ・訪日外国人が容易に理解することができる
- ・ガイドボランティアの情報を知ることができる

2) 飲食・休憩機能…憩う

青葉山公園の整備により、散策やジョギング、自然観察など早朝からの活動や、他都市の公園でも見られるナイトカフェやイベントの開催など、早朝から夜間まで幅広い時間帯での公園利用が考えられる。そのため、公園センターでは、カフェや休憩スペース、トイレなどにおいて多様な公園利用にも対応できる必要がある。

また、市民が日常的に気軽に休憩できる場所として、落ちつきのある庭や、自然を感じながらゆったりとくつろげる広場を設け、憩いの場を創出する。

◇カフェ・テラス・休憩スペース

- ・早朝や夜間など幅広い時間帯で、公園利用者が立ち寄ることができる
- ・仙台ならではの特色のある雰囲気味わうことができる
- ・日常的に立ち寄りやすく、休憩ができる
- ・屋外と一体的な広々とした場所で、自然を感じくつろぐことができる

◇桜の小径

- ・桜並木と広瀬川沿いの景観を楽しみながら散策できる
- ・広瀬川につながり、身近に感じられる

◇庭

- ・和風の落ち着いた雰囲気の中でくつろげる

◇中央広場

- ・広々とした空間の中で、ゆったりと自然を感じながらくつろげる

3) 体験・交流機能…集う

公園センターでは、青葉山周辺地区をより楽しみ、何度でも訪れてみたいと思わせるような本物の体験プログラムを実施する。また、その体験プログラムは市独自のものではなく、市民活動と連携した内容の充実が必要である。体験・交流ホールや広場を利用した来訪者のおもてなしや、イベントの開催により、仙台らしさを実感でき、多くの来訪者が交流を育み、集う場を創出する。

◇体験・交流ホール

- ・仙台らしさを感じられる、特徴のあるおもてなしが得られる
- ・ユニークメニューなど様々なイベントや活動に利用できる
- ・災害及び緊急時の避難スペースとなる
- ・体験プログラムの実施により、本物の体験やアクティビティを通して、仙台を感じられる
- ・市民も観光客も一緒にプログラムを楽しむことができる
- ・市民活動による体験プログラムに参加できる
- ・市民活動団体が活動や準備を行うことができる

◇広場

- ・来訪者を最初に迎える
- ・イベントの開催により出会い・交流が生まれる

◇中央広場（再掲）

- ・青葉山の特徴を生かしたイベントを開催できる
- ・屋内空間と連携して、体験プログラムを開催できる

4) その他必要な施設

青葉山公園利用のサービス機能の他、青葉山周辺地区の拠点として、公園来訪者の車両乗降エリアを整備する。

◇共用スペース

- ・トイレ、ロッカースペースなどの利用者サービス機能
- ・機械室、収納庫、管理室など
- ・通路やエントランスなど

◇車両乗降エリア

- ・バリアフリー駐車場、タクシーやバスの乗降所、駐輪スペースなど